

**【施策評価調査】**

施策名	2-1-2	運動習慣づくり		85	楽しく身体を動かし、体力をつけます。 運動や身体活動の重要性を理解し、自分にあった運動習慣を身につけます。 ウォーキングやストレッチ体操を日常生活の中に取り入れ、身体活動を増やします。 ・生活習慣病の予防と改善のためには、正しい食生活と併せた運動習慣づくりが重要である。さらに、介護予防対策としても高齢者の筋力アップのため、手軽に誰でも、どこでもできるウォーキングやストレッチ体操の普及が必要である。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部健康福祉課	担当	健康づくり担当		生活習慣病予防のため、住民、学校、保育園・幼稚園、行政が協力して、住民が気軽に運動できる環境の整備に努め、定期的に運動する習慣を促します。また、運動習慣が継続することにより、高齢者の筋力アップや転倒による寝たきり予防にも繋がります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	特になし	リーダー	荻原敏子		

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：定期的に汗をかく運動をしている人の割合(%)	生活習慣調査-H16.9実施	計画	40.0%	43.0%	45.0%	47.0%	50.0%
	38.3%	実績	38.30%	31.60%	35.70%		
指標：筋力アップ事業参加者数(人)	H16年度実績	計画	340人	450人	560人	600人	700人
	211人	実績	989人	1,200人	1,711人		
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	150,000	206,000	298,000		
決算	135,744	196,968	252,000			

**事務事業事前評価 22年度の組立て**

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)		
運動に関する普及啓発事業	H21 現計 282,000	教室参加延べ人数 600人	日常の身体活動を増やすことにより、適正な体重管理と筋力アップとなり生活習慣病予防につながる。筋力アップにより高齢期での転倒を防止することができ、要介護状態への移行を防止することができる。教室を通じて仲間と一緒に活動することで生きがいづくりや、心身の健康づくりとなる。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 247,000			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

**施策事前評価 22年度の組立て**

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性	健康づくりに関連した運動と、生涯学習課のスポーツ教室、運動教室との位置づけを明確にし、定期的に運動をする人の割合を増やしていく。	
現状水準維持			
総合評価	<b>総合評価</b>		
	健康づくりの観点から、継続的に施策展開を行っていることを評価する。ただし後期計画に向けて、現状のデータを広く分析した上で、きっかけから習慣に結びつけるために、生涯学習課と運動教室の一元化を図るなど、現時点から検討し、横の調整を行っていくこと。よって、「運動に関する普及啓発事業」は、H22年度予算計上は見送り、運動の習慣をつくるサポート事業とする。		